

昨年度(令和元年度)の授業改善プランの検証 現4年(旧3年)

	成果	課題	改善策
国語	<p>◎相手意識を意識させることで、順序や目的を意識して話したり書いたりすることができるようになってきた。</p> <p>◎文章の組み立てについて構成図を書くことで、視覚的に捉え、理解できる児童が増えた。</p> <p>◎辞書引きを習慣化することで、辞書の使い方を理解し、活用できるようになってきた。</p>	<p>▼自分の考えの根拠を表現することが苦手な児童がいる。</p> <p>▼中心となる語や文について、抽象と具体の違いが曖昧なままの児童がいる。</p> <p>▼国語辞典の使い方が不慣れな児童がいる。</p>	<p>★自分の考えの基になった叙述や表現に印をつけたりメモしたりすることで、自分の考えを支える理由を話したり書いたりできるようにしていく。</p> <p>★抽象と具体の違いを単語から文章へ応用し、明確に捉えられるようにする。</p> <p>★国語辞典を他教科においても意識的に活用できるようにし、辞書の使い方に慣れるとともに、語彙を広げていくことができるようにする。</p>
社会	<p>◎地図の読み取りを十分に行えるよう、地図帳を活用し、国土の特色の理解が深められた。</p> <p>◎人に聞く、本で調べる、インターネットで調べるなど、様々な調べ方を行うことで、情報の取捨選択ができるようになってきた。</p>	<p>▼グラフや時系列など、資料からの読み取りが不十分である。</p> <p>▼調べ学習で得た知識のまとめ方について、理解が不十分な児童がいる。</p>	<p>★資料から何が読み取れるのか個人で確認し、さらに学級で話し合う機会を設けて読み取る力を付ける。</p> <p>★单元ごとに簡単なミニ新聞を作り、細かくまとめていくことで、学習したことを表現する活動を増やす。</p>
算数	<p>◎少人数習熟度別学習の利点を生かして、補習が必要な児童に対して、单元末テストの直前等に補習を行った。</p> <p>◎児童が発表した式や図について、別の児童が説明する場をつくる等して、数学的な考え方を養わせることができた。</p> <p>◎教師の声掛けによって、既習事項を基にして新</p>	<p>▼数と計算の領域で、具体物操作を一人一人が行える環境になかった。</p> <p>▼全体の場での交流は充実したものの、児童同士が即時的に交流する活動は、少なかった。</p>	<p>★今後の環境による一人一台タブレットを存分に活用して、個別最適化された学習を展開していく。</p> <p>★交流の仕方に留意しながら、ホワイトボードを活用したり、ノートを見せ合ったりして、児童同士の交流の場面を増やす。</p>

	出事項を考えさせることができた。		
理科	<p>◎物質・エネルギー領域では、学習過程を固定して取り組むことができ、児童の学習定着につながった。</p> <p>◎指導事項をおさえて、学習のまとめをすることができた。</p>	<p>▼生命・地球領域では、ビデオ等の学習にならざるを得ない場合が多く、実体験に乏しくなってしまった。</p> <p>▼講義的な授業形態が多くなってしまい、児童の考えから学習のまとめを導くことが少なくなってしまった。</p>	<p>★「外に出る」「理科室に行く」理科を心掛け、指導を行っていく。</p> <p>★生命・地球領域でも、生活体験から予想を組み立て、観察活動をする必要性・必然性を児童にもたせる。</p>
音楽	<p>◎常時活動として毎時間の最初に身近な音楽を聴く鑑賞の学習を取り入れることで音楽を聴いて言葉で表現することに苦手意識をもつ児童が少なくなった。</p> <p>◎旋律の特徴を音楽の要素や曲想、旋律の特徴と自分の気持ちを結びつけて言葉や音楽で表現することができるようになってきた。</p> <p>◎旋律の特徴を言葉での表現を最初に取り入れ、教師の模範を聴くスモールステップでの学習を行うことで、特徴を生かした演奏をするための工夫を自ら考えることができた。</p>	<p>▼音楽を聴いて言葉で表現する活動を常時取り入れたことで、箇条書きでの表現はできる児童は増えたが、文章での表現が難しい児童も多い。音楽の要素と気持ちを表す言葉とを関連づけて考えることが難しい児童もいる。</p> <p>▼旋律の特徴を言葉で表現することが難しい。</p>	<p>★文章で表現するよう声かけを行う。また音楽の要素や気持ちを表す言葉を書いたカードを用いて常時的に指導していく。</p> <p>★言葉で表現できるよう例を示す。</p>
図工	<p>◎作品の制作途中で、ミニ鑑賞会を取り入れ、友達の作品で参考にしたい良い部分を見つけたり、自分の今までの活動の振り返りを行ったりすることで、新たに自分の表現活動に生かすことが出来た。</p> <p>◎ICT 機器によって、新しい道具を使うところの手元を写して説明することによって、児童が興味をもって分かりやすく道具の使い方について学</p>	<p>▼周りの友達の作品に興味がなく、色や形に注目して鑑賞を楽しむことができず、自分の見方や感じ方を深めることができない児童がいた。</p> <p>▼児童によっては正しい使い方を理解していない児童がいた。</p>	<p>★作品を見る視点をよりわかりやすく掲示するようにし、児童が主体的に活動に臨めるような場づくりをする(自分で移動するのではなく、作品をまわして見るなど)。</p> <p>★道具の使い方について、年間指導計画を見直し、繰り返し指導を行うようにする。また、デジタル教科書の動画などを活用するようにする。</p>

	ぶことが出来た。		
体育	<p>◎友達同士で動きを見合うことで、ポイントを意識して取り組むようになり、意欲につながった。</p> <p>◎学習カードに活動内容を記載することで、見通しをもって活動できるようになった。また、何をめあてにして運動するかも考える助けとなった。</p>	<p>▼怪我に対する恐怖心からなかなか挑戦できない児童もいた。</p> <p>▼ふり返りの書く内容について、着目するポイントを明確にすることができないこともあった。</p>	<p>★安全に運動ができるように、跳び箱の高さ、マットの数・位置等、場の設定を工夫する。</p> <p>★教師の声掛けから、運動のポイントを伝えられる指導を心掛ける。また、友達の動きを見る際にも、どこに着目すればよいかを伝える。</p>